



4年 向後 俊佑くん

光

※光町の光とい
う字を練習し
ました。曲が
りとはねに気
をつけて書き
ました。



1年 新井 梨水さん



『すきなもの
いっぱい』

※私の好きなもの
のがいっぱい
入っているポ
ケットだよ。
本当にあった
らいいな。

あつまれみんなの力作



『だかし屋』

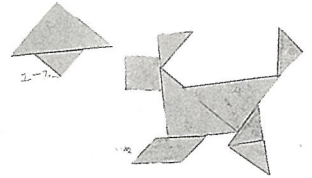


5年 伊藤 敬広くん

※カチャポンや
レジたながと
ても作るのが
くろくしまし
た。だだけが
んばりました。



2年 平山 直通くん



『いぬとユーフオー』

※いぬがむずか
しかった。で
も、いさく
ひんができた
ので、よかつ
たです。



6年 久保田桂丞くん



『焼き物づくり』

※頭をかくの
がむすかしが
たです。手を
白くするため
に平刀で深く
ほりました。



3年 伊藤 練くん

※元気いっぱい
に書いてみよ
う。ほくは、
そっ思ってこ
のお習字を書
いた。



中心

三年
れん

評者詠
喜寿近く放送大に学ぶ友
卒業証書の学土光れり

鈴木甲子幸

電車内若者居座る優先席
煽が席を煽にゆする

電車の優先席を若者が占領してしま
まい、比較的元気な作者が席を譲
る。今の世相か。

高梨 キヨ (長塚)

疾く起きて彼岸団子を丸めれば
厨に浮かぶ母の面影

早めに起き、彼岸団子を作ってい
ると遠い日の母の面影が彷彿と浮
かぶ。

土屋 好 (虫生)

「お彼岸に行きます」といふ娘の電話
幼児のごと指折り待つ

娘さんの帰省を待つ心情が切々と
伝わってくる。

藤代 敏子 (宮内)

懐かしき幼友達すでに亡く
杳き故郷 幻を追ふ

故郷を訪れることも叶わなくなり
幼友達は故人となってしまった。
望郷の思いが切々と伝わってくる。

竹内 キヨ (上原)

ひかり歌壇

